



令和5・6年度大島地区指定「指導方法改善」研究協力校 令和6年度 沖永良部秋季教育研究大会

知名町立下平川小学校 研究公開

令和6年10月30日(水)

学習者主体の授業づくりによる伝え合う力を高める児童の育成
～ 子供の事実を基にした省察を通して ～

研究の出発点

対外的な学力調査で、
対県・対国ともマイナス2桁

学力の原点に立ち返り、学習者である児童の視点で授業改善に臨む。

I 子供の事実を基にした省察

児童の姿で成果を検証するために、授業研究の在り方を次のように改めた。(視点の一例)

	一般的な内容	本校が目指す内容
参観の視点	○ 指導案の流れ、授業者の指導法、かわり ○ 児童のまとめ、成果等	☆ 児童の姿 つぶやき、試行、発言、行動等

II 言葉による見方・考え方をはたらかせるための工夫

- 1 見方・考え方を意識化させる……キーワードを板書で常設(写真1)
- 2 見方・考え方を顕在化させる
- 3 叙述を根拠に考える……論拠を基に話し合う(写真2)

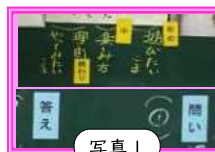


写真1



写真2

III 自分の思いや考えを深めるための工夫(R5)

- 1 自分の思いや考えをもつための課題や導入
- 2 学び合いの場の充実……追究の方法を児童が選択(写真3)
- 3 考える時間の確保



写真3

IV 自分の思いや考えを伝えるための工夫(R6)

- 1 話し合いを深めるための言葉の活用……カード活用(写真4)
- 2 伝え合う場の流れと場の設定
- 3 「すくーる373る」の活用



写真5

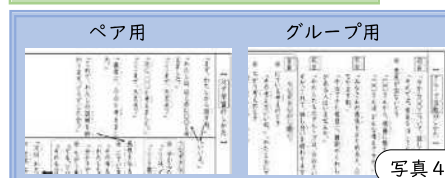


写真4

V 学びに向かうための工夫

- 1 児童に学びの当事者意識をもたせる
- 2 フローチャートと振り返りカード……教室に常設(写真5)
- 3 授業の時間配分の可視化……教児別にグラフ化(写真6)



写真6

I～VIの
具体は、右の
QRコードから
研究紀要にて



VI 成果と課題

成果：児童、教員ともに、「思いや考えを深める」「学びに向かう姿」等の評価がすべて向上した。

課題：対外的な学力調査や検査等で、顕著な改善・向上等が見られなかった。

VII 公開授業及び分科会、全体会の様子……全学級公開：1～6年、特支1(知)、特支2(情)計8学級



二年生



五年生



分科会



指導講話



講演

参加者の感想

- 一人の児童に着目することで、どのタイミングで児童が困ったり興味を示したりしているのかを考えることができた。
- 私たちの経験や「〇〇なはず」という思い込みだけで授業を見るのではなく、目の前で授業を受けている児童の姿から学ぶこともたくさんあるということを改めて考えさせられた。
- これまで当たり前だと思っていた研究授業の形式に今回のような形もあるのだと学びになった。普段の授業の参観よりも、「自分だったらこうするかも。」という意識をより高く持って参観することができた。